



第55期 報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日



輝く星空とホテル立山

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度の事業概況についてご報告申し上げます。

一昨年より続く新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、世界中の人の往来を止め、経済市場に大きなダメージを与え続けております。日本国内でも同様に人流の抑制政策が主となり、厳しい経済状況が続いたまま2年間が経過しました。

観光業界におきましても、感染の世界的な拡大により、海外インバウンドが消滅し、国内でも観光需要が大きく減少する状況となり、秋の感染緩和時に一時的な回復の盛り上がりを見せたものの、旅行需要喚起策である全国的なG o T oトラベルの実施もなく、おしなべて深刻な事態が続きました。

そうした中、当期の立山黒部アルペンルートは富山側の立山駅～弥陀ヶ原間部分開通は行わず、4月15日に立山駅～信濃大町駅間の全線において営業を再開し、合わせて、ホテル立山・室堂ターミナルに於ける宿泊、飲食及び物品販売、及びホテル立山売店部・立山駅店、黒部平店も営業を開始いたしました。

当期は「ホテル立山/室堂ターミナル・新型コロナウイルス感染防止対策」に基づき、様々な感染防止に努めながら、11月30日まで営業することができました。

一方、弥陀ヶ原ホテル並びにホテル立山売店部の美女平店、大観峰店、レストラン黒部平につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、昨年同様に旅行動向の大変厳しい状況が続く見通しから、当期も営業を休止いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、大都市圏を中心とした断続的な緊急事態宣言の発令により、国外はもとより県外からの誘致が難しく、地元・近隣からの誘致に頼らざるを得ない状況となり、富山県からご支援いただいた、富山県民キャンペーンを主とした個人旅客（マイクロツーリズム）の誘致に努めました。10月以降は感染縮小により全国的に旅行が活発化しましたが、大都市圏からの旅行需要の戻り幅は大きいものではありませんでした。

当期の収入は、営業休止をせずに宿泊旅客の誘致、レストラン及び売店の利用促進に努めたため前期より大きく増加いたしました。全国的な大きな誘致が叶わないこともあり、一昨年には大きく及ばない実績となりました。

この結果、ホテル立山宿泊人員は合計16,003人（前期比222%）となり、当期の営業収益は、ホテル立山収入4億23百万円（前期比242%）、店舗（飲食・物品）収入2億97百万円（前期比122%）となり、店舗外収入25百万円、賃貸収入1億81百万円を加えた営業収益合計は9億27百万円（前期比152%）となりました。

営業費につきましては、大変厳しい経営環境を踏まえ、スリムな運営体質へ変えていくために、昨年からの経営全般にわたる業務の効率化、勤務体制の合理化、季節雇用者の抑制等のさらなる費用抑制により、営業費合計は10億92百万円（前期比75%）となりました。

これに、雇用調整助成金等の営業外収益45百万円、営業外費用12百万円を加減した当期の経常損失は1億32百万円となりました。さらに、特別損益、法人税等を加減した結果、1億29百万円の当期純損失を計上することとなりました。

部門別営業成績は次のとおりであります。

ホテル立山宿泊営業成績表（令和3年度）

項 目		実 績	前期比%	
営業日数	日	230	147	
宿泊人員	人	16,003	222	(備考)
一日平均宿泊者数	人	70	149	営業期間(当期)
営業収入	千円	423,668	242	令和3年4月15日～令和3年11月30日
宿泊収入	千円	421,015	242	(宿泊日数229日)
雑収入	千円	2,652	301	営業期間(前期)
一日平均収入	千円	1,842	164	令和2年4月15日～令和2年4月17日
客室数	室	81	100	令和2年7月1日～令和2年11月30日
延使用客室数	室	7,541	218	(宿泊日数154日)
客室回転率	%	41	147	
宿泊定員	人	260	100	
宿泊効率	%	27	150	

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（令和3年度）

項 目		実 績	前期比%	(備考)
【店舗営業】				店舗営業期間(当期)
店舗営業日数	日	230	137	令和3年4月15日～令和3年11月30日
室堂到達人員	人	216,846	143	
店舗営業収入	千円	297,055	122	店舗営業期間(前期)
食堂収入	千円	84,948	148	令和2年4月15日～令和2年4月17日
喫茶収入	千円	36,517	38699	(食堂部、売店部・室堂店)
物品販売収入	千円	172,678	94	令和2年6月19日～令和2年11月30日
雑収入	千円	2,910	88	(食堂部、売店部・室堂店)
一日平均収入	千円	1,291	89	令和2年8月1日～令和2年11月30日
店舗営業収入/室堂到達人員	円	1,370	85	(売店部・立山駅店、黒部平店)
【店舗外営業】				
店舗外営業収入	千円	25,545	182	(美女平店、大観峰店、レストラン)
PB商品販売収入	千円	10,918	116	黒部平は令和3年度営業休止)
物品販売収入	千円	14,506	321	
雑収入	千円	121	124	

財産および損益の状況の推移

区 分	第52期 (平成30年度)	第53期 (令和元年度)	第54期 (令和2年度)	第55期(当期) (令和3年度)
売上高(千円)	2,921,182	2,629,582	609,710	927,394
当期純利益(損失)(千円)	△110,021	△96,595	△909,248	△129,847
1株当たり当期純利益(損失)	△122円25銭	△107円33銭	△1,010円28銭	△144円27銭
総資産(千円)	1,941,253	2,016,108	1,857,965	1,530,679

令和4年度の取り組み

世界市場はウィズコロナで経済を回す立場へ変わりつつあり、人の流れが戻る気配を見せています。日本も同様に、ワクチン接種の進行と相まって、極端な人流抑制政策からの転換を図りつつあり、予断は許さぬものの少しずつ観光が回復していく方向へ向かうものと思われまます。当社においても、効率的な事業運営に加えて旅客回復に向けた取り組みを進め、一日も早い業績の回復と経営基盤の安定化を図る必要があります。

今年度はホテル立山50周年の節目であり、今まで築き上げてきた「立山黒部」のブランドを土台に、お客様のニーズに合わせて変えるべきは変え、引き続きお客様から選ばれるホテル・観光地を目指していかねばなりません。

令和3年12月、営業各部門を統括して組織横断的な課題を解決する役割を担う「営業統括本部」、およびアルペンルート全般の営業方針を策定する「営業企画室」を新設いたしました。今後とも、「感動を快適に」「変革への挑戦」「回復と蓄積」の3つのキーワードを基本方針とした中期経営計画を鋭意推し進めてまいります。

1. 経営基盤の安定と効率的な事業運営へ向けて

経営基盤の安定を図るため、令和3年10月、欠損金を補填し財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策の柔軟性および機動性を確保すべく、資本金の減少ならびに剰余金の処分を行いました。

また、これまでの大量集客を前提とした事業運営を見直し、引き続きスリムな運営体制の構築を目指してまいります。また、繁閑による利用客の変動を少なくし、平準化を図ることなどで、サービスや要員の効率化にも継続して取り組んでまいります。

一方、当社では、室堂ターミナルの宿泊並びに立山黒部アルペンルートの飲食・物品販売事業に専念しながら業績の回復を目指してまいりました。今期の営業におきましては収益の向上を図るべく、山で泊まらないと経験できないオンリーワンの魅力やサービスに磨きをかけるとともに宿泊等の価格を見直し、高付加価値のある商品を提供してまいります。

当面につきましては、地元・近隣からの個人旅客誘致が引き続き重要になると考えられ、富山県・関係市町村・関係機関のご協力をいただきながら誘客に努め、今後も多くのお客様に楽しんでいただき、立山黒部の素晴らしさが広く伝わるよう職員一丸となって邁進いたします。

2 宿泊・食品の安全確保と自然保護

当社施設や食品の安全については、お客様が安心・信頼してご利用いただけるよう、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、並びに食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

新型コロナウイルスの拡大防止対策については、「ホテル立山/室堂ターミナル・新型コロナウイルス感染防止対策」に基づき、安心してご利用いただけるよう引き続き周知いたします。ウィズコロナにおける受入対策として、お客様用のアルコール消毒液の設置、館内の消毒清掃および換気の強化、従業員のマスク着用と検温・手指消毒の徹底などの対策を、行政ならびに関係機関の示す方針に準じながら引き続き講じてまいります。

また、特異な環境に配慮した施設設備の維持更新やごみ処理対策の徹底等、引き続き立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

昭和47年9月1日の開業以来、ホテル立山はおかげさまで本年50周年を迎えます。令和4年度のホテルの営業に際しまして、50周年を記念するビジョン「50年間の感謝を込めて、これからも。」といたしました。幾多の先人の方々が築き上げてきた「ホテル立山」ブランドを今後も多くのお客様に支持していただき、選び楽しんでいただける立山黒部アルペンルートへと進化するために、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(令和4年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	297	流動負債	220
現金及び預金	223	買掛金	7
売掛金	0	短期借入金	22
未収金	16	関係会社短期借入金	97
未収法人税等	0	リース債務	5
商蔵品	8	未払金	8
貯蔵品	42	未払費用	2
前払金	4	未払法人税等	0
前払費用	0	未収消費税等	55
その他	1	預り金	10
		賞与引当金	11
固定資産	1,232	固定負債	1,362
有形固定資産	1,095	長期借入金	133
建物	548	関係会社長期借入金	705
建物附属設備	294	リース債務	11
構築物	61	退職給付引当金	508
機械及び装置	4	長期未払金	3
車両及び運搬具	0	負債合計	1,583
器具及び備品	40	(純資産の部)	
土地	119	株主資本	△35
建設仮勘定	26	資本金	10
無形固定資産	14	資本剰余金	83
ソフトウェア	13	その他資本剰余金	83
電話加入権	1	利益剰余金	△129
投資その他の資産	123	その他利益剰余金	△129
投資有価証券	57	繰越利益剰余金	△129
関係会社株式	35	評価・換算差額等	△16
その他	31	その他有価証券評価差額金	△16
		純資産合計	△52
資産合計	1,530	負債・純資産合計	1,530

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

損益計算書の要旨

(令和3年4月1日～令和4年3月31日) (単位：百万円)

科目	金額
売上高	927
売上原価	157
売上総利益	769
販売費及び一般管理費	935
営業損失	165
営業外収益	45
営業外費用	12
経常損失	132
特別利益	9
特別損失	5
税引前当期純損失	129
法人税、住民税及び事業税	0
当期純損失	129

株主資本等変動計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計			
		その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金				
当期首残高	900	-	△806	93	△7	86	
当期変動額							
減資	△890	890		-		-	
欠損填補		△806	806	-		-	
当期純損失			△129	△129		△129	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					△8	△8	
当期変動額合計	△890	83	676	△129	△8	△138	
当期末残高	10	83	△129	△35	△16	△52	

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員 (令和4年6月29日現在)

<ul style="list-style-type: none"> ●設立年月日 昭和42年12月24日 ●資本金 1千万円 ●発行済株式総数 900,000株 ●株主数 2名 立山黒部貫光株式会社 富山地方鉄道株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ●役員 代表取締役社長 専務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 監査役 監査役 	<ul style="list-style-type: none"> 技術環境部担当 経理部長 営業推進部担当 経営企画室長兼ホテル事業部担当 技術環境部長 	<ul style="list-style-type: none"> 見角 要 中川 修 高江 均 中村 直幸 秋元 一秀 辻川 徹 大谷 真一 川高 健裕 杉林 義宏 出来田 肇 新庄 一洋
---	---	--	---

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併（存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託
令和 3年 3月31日	宇奈月国際ホテル、弥陀ヶ原ホテル TKKとの経営委託契約を解消
4年 9月 1日	ホテル立山 開業50周年記念日

ご案内



〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>



ホテル立山・立山三山・星空・雪の大谷の
イラストを用いたロゴマーク。

立山らしさを詰め込み、親しみやすさを込めた
柔らかいイメージのデザインです。

開業記念日は、令和4年9月1日（木）です。

（編集・発行）立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185